

さくらタイムス令和6年10月号

お題は「自信と謙遜」です。自信とは文字通り自分を信じられること、そしてそれは「自分が得意なことや提供できる価値を知り、それを他者に届けられるよう行動すること (by Eric Ravenscourt)」へとつながります。この過程で他者への思いやりが欠け、自分の能力を過大評価するようなことがあれば、「傲慢＝おごり高ぶって人を見下す」になり、紙一重でとんでもないマイナス世界に入ります。そうならないために必要なのは「謙遜＝自己の能力や成果を控えめに表現する行為や態度で、他人の意見や立場を尊重することが含まれる (実用日本語表現辞典)」です。つまり理想は「謙遜を忘れず、自信を持って行動・活躍する」です。ただしこの謙遜にも「卑下＝自分を劣ったものとしていやしめ、へりくだる」というマイナス世界が紙一重で存在します。

子どもは白紙の状態で生まれてきます。紙一重の上の方「自信と謙遜」で育ててもらうにはどうすればよいか。まずは自ら何か良いことを成し遂げた時に思いっきり「褒め・讃え」てあげます。そうして「自分でできた!」、これを積み重ねると、実行前に「自分でできる!」という自信が出来上がってゆきます。この後が大事で、ちょっと間をおいた良いタイミングで「出来て良かったね、偉かったね。きっと『神様・ご先祖様・教えてくれたパパ・ママ・祖父母・先生やお友達 (いずれかはご自由にお選びください)』のおかげだね。ありがとうって言おうね」と優しく伝えます。この「おかげ様と感謝」の精神さえあれば、

傲慢に陥ることはありません。また、しっかりポイントを押さえて褒められた子どもは卑下することもあります。大人が毎日の瞬間・瞬間を大事にとらえ丁寧に対応する、これさえ忘れなければ、もともとが「天から授かった天才(大園長)」のお子さん達なので、大丈夫の大安心で成長していただけると信じています。「良き思いを良き言葉で表現し、確実に伝える」こと、どうぞよろしく
お願いいたします。

園長 山内 香幸